

2022年3月期 決算短信補足資料

2022年4月28日(木)

【名証メイン市場】 証券コード:6111

 旭精機工業株式会社

売上高は、プレス機械への受注が好調なうえ、精密金属加工品の需要も回復してきたことなどから、前期比+9.9%の129億1千9百万円となりました。

()は前期比

精密金属加工品:41億1千3百万円(+ 16.1%)

✓ 自動車関連、安全関連、水晶振動子関連の各部品を中心に幅広く需要が回復し、増加

小口径銃弾:30億3千1百万円(▲8.7%)

✓ 政府の予算執行を受け、減少

プレス機械:46億7千2百万円(+28.4%)

✓ 旺盛な受注を背景としたリチウムイオン電池缶製造用プレス機械を増産した結果、増加

自動機・専用機:3億8千2百万円(▲30.7%)

✓ 受注は回復傾向にあるものの、リードタイムの長い機種が多いため出荷に至らず、減少

ばね機械:4億9千4百万円(+ 56.5%)

✓ コイリングマシンや研削機を中心に受注が回復し、増加

航空機部品:2億5百万円(▲43.7%)

✓ 旅客機の減産の影響を受け、減少

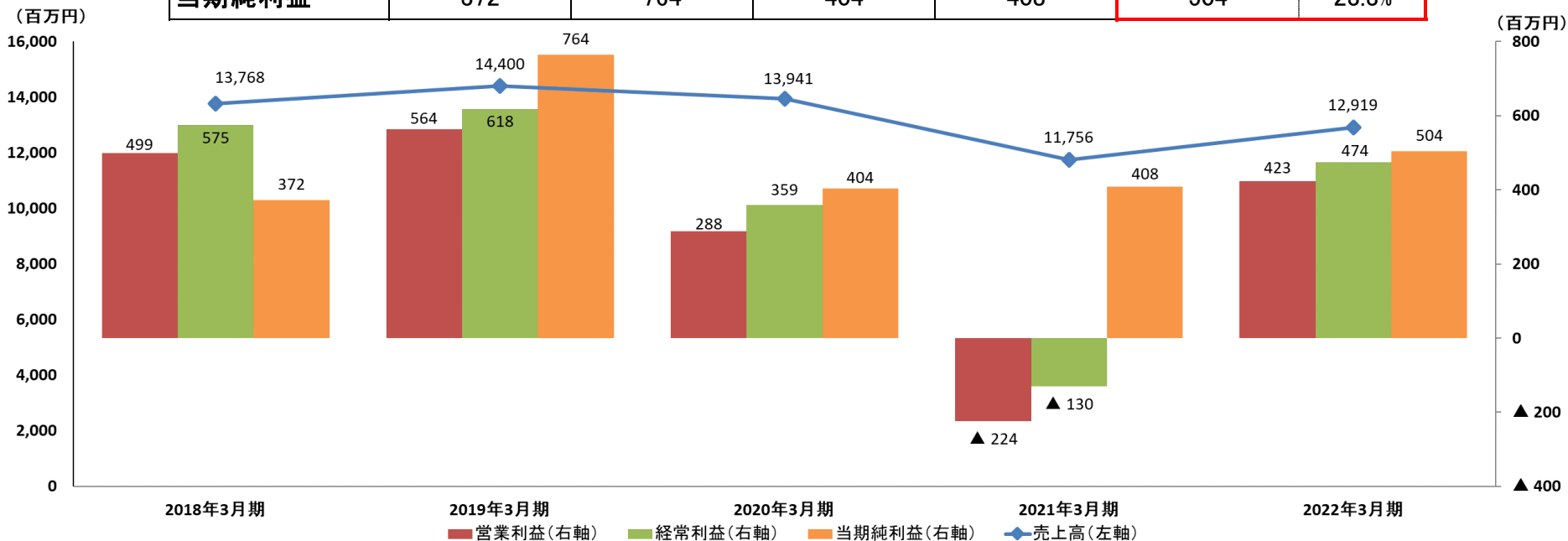
2022年3月期 全社業績概況

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	前年比
売上高	13,768	14,400	13,941	11,756	12,919	9.9%
営業利益	499	564	288	▲ 224	423	-
経常利益	575	618	359	▲ 130	474	-
当期純利益	372	764	404	408	504	23.3%
1株当たり 当期純利益	130円82銭	308円38銭	167円73銭	169円71銭	207円64銭	-
1株当たり 配当金	70円00銭	70円00銭	70円00銭	70円00銭	70円00銭	-
配当性向	53.5%	22.7%	41.7%	41.2%	33.7%	-

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	前年比
売上高	13,768	14,400	13,941	11,756	12,919	9.9%
営業利益	499	564	288	▲ 224	423	-
経常利益	575	618	359	▲ 130	474	-
当期純利益	372	764	404	408	504	23.3%

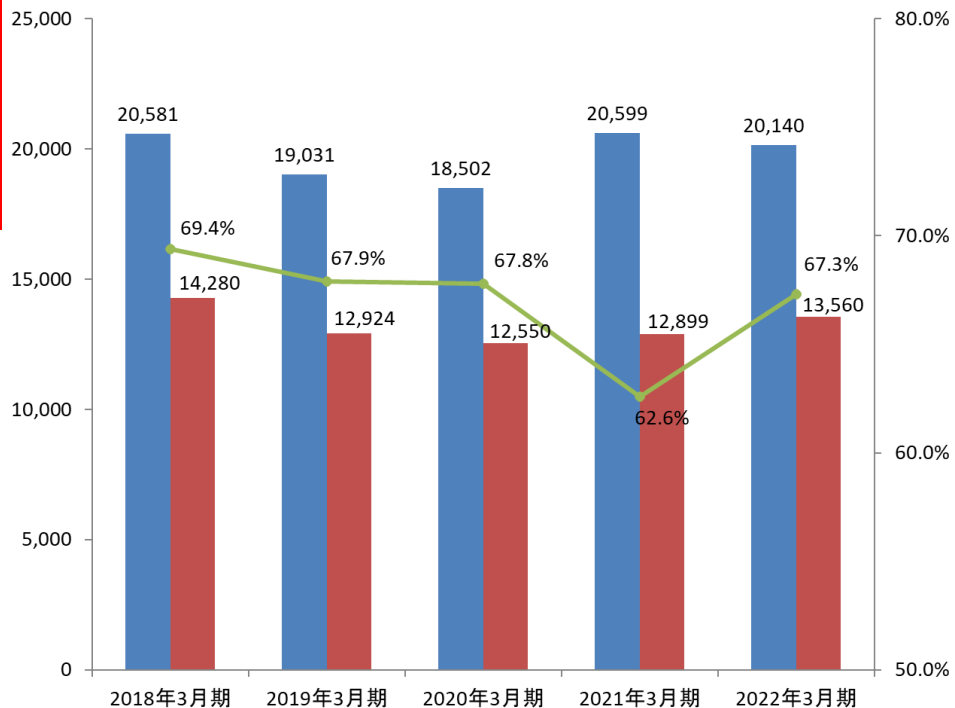


2022年3月期 財政状態の推移

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
総資産	20,581	19,031	18,502	20,599	20,140
純資産	14,280	12,924	12,550	12,899	13,560
自己資本比率	69.4%	67.9%	67.8%	62.6%	67.3%
1株当たり純資産(円)	5,022円56銭	5,358円83銭	5,207円56銭	5,353円44銭	5,448円11銭

(百万円)



資産、負債及び純資産の状況

(資産) : 201億4千万円、前期末比▲4億5千8百万円

- ✓ 流動資産では、主に、仕掛品が4億6千2百万円、売掛金が4億5千9百万円それぞれ増加したものの、現金及び預金が13億1千6百万円減少。
固定資産では、主に、投資有価証券が3億5千1百万円増加したものの、有形固定資産が4億6千万円減少。

(負債) : 65億8千万円、前期末比▲11億2千万円

- ✓ 流動負債では、主に、電子記録債務が3億3百万円増加したものの、短期借入金が12億3千万円減少。
固定負債は、2百万円増加。

(純資産) : 135億6千万円、前期末比+6億6千1百万円

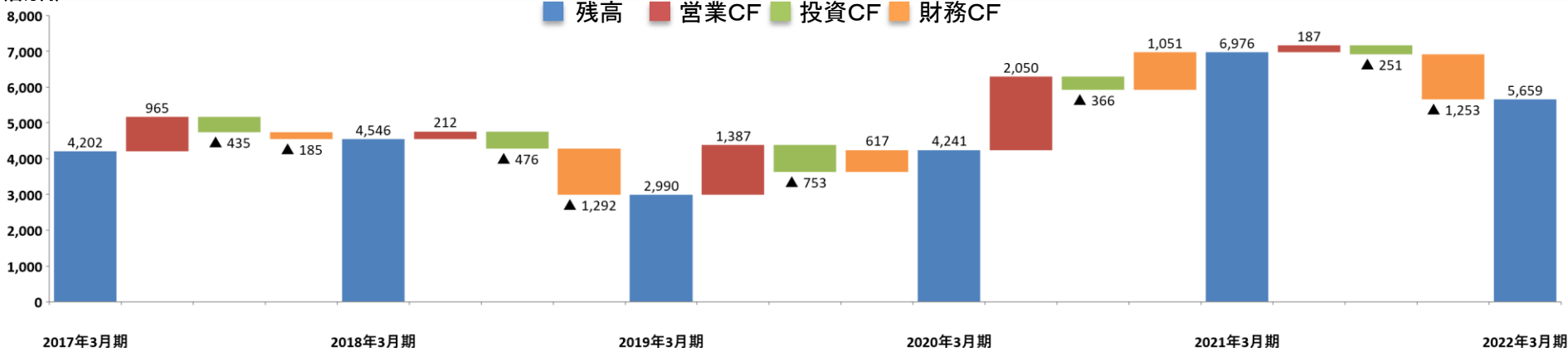
- ✓ 主に、繰越利益剰余金が3億2千4百万円、その他有価証券評価差額金が1億6千9百万円それぞれ増加したこと及び自己株式が処分により1億6千7百万円減少。

■ 総資産(左軸) ■ 純資産(左軸) — 自己資本比率(右軸)

(単位: 百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	965	212	1,387	2,050	187
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 435	▲ 476	▲ 753	▲ 366	▲ 251
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 185	▲ 1,292	617	1,051	▲ 1,253
現金及び現金同等物の期首残高	4,202	4,546	2,990	4,241	6,976
現金及び現金同等物の期末残高	4,546	2,990	4,241	6,976	5,659

(百万円)



2017年3月期

2018年3月期

2019年3月期

2020年3月期

2021年3月期

2022年3月期

キャッシュフロー状況

当事業年度における現金及び現金同等物は56億5千9百万円 前期末比 13億1千6百万円減少

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 前年期末より主に、棚卸資産の増加により7億3千2百万円及び売上債権の増加により2億7百万円減少したものの、減価償却費で7億8千3百万円及び税引前当期純利益で7億2千8百万円計上。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

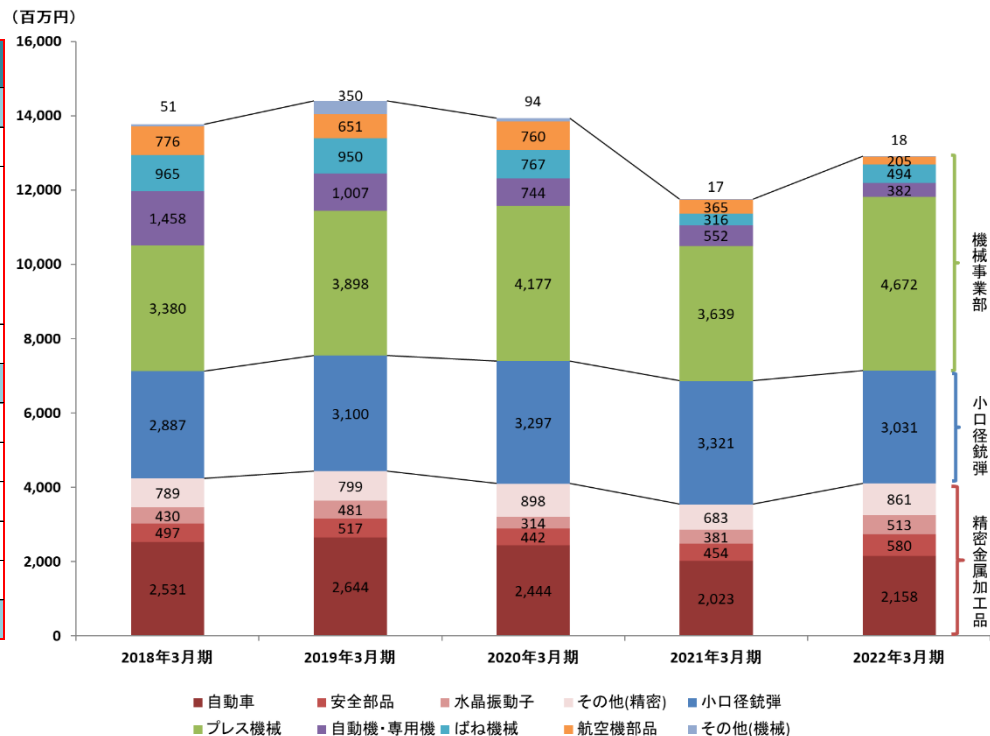
✓ 前年期末より主に、投資有価証券の売却により2億7千5百万円増加したものの、有形固定資産の取得で3億5千万円及び投資有価証券の取得で1億6千3百万円支出。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 前年期末より主に、自己株式の処分により1億5千7百万円増加したものの、短期借入金の返済により12億3千万円及び配当金で1億6千8百万円支出。

2022年3月期 セグメント別売上高推移

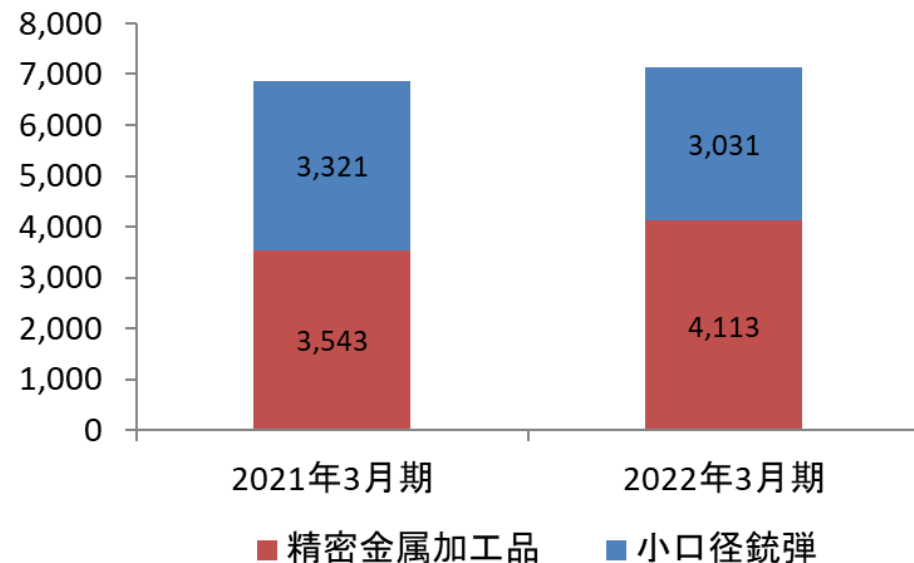
(単位:百万円)	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	前年比
精密加工事業部	7,135	7,542	7,397	6,865	7,145	4.1%
精密金属加工品	4,247	4,442	4,099	3,543	4,113	16.1%
自動車	2,531	2,644	2,444	2,023	2,158	6.7%
安全部品	497	517	442	454	580	27.5%
水晶振動子	430	481	314	381	513	34.5%
その他(精密)	789	799	898	683	861	26.0%
小口径銃弾	2,887	3,100	3,297	3,321	3,031	▲ 8.7%
機械事業部	6,633	6,857	6,544	4,891	5,774	18.1%
プレス機械	3,380	3,898	4,177	3,639	4,672	28.4%
自動機・専用機	1,458	1,007	744	552	382	▲ 30.7%
ばね機械	965	950	767	316	494	56.5%
航空機部品	776	651	760	365	205	▲ 43.7%
その他(機械)	51	350	94	17	18	10.0%
合計	13,768	14,400	13,941	11,756	12,919	9.9%

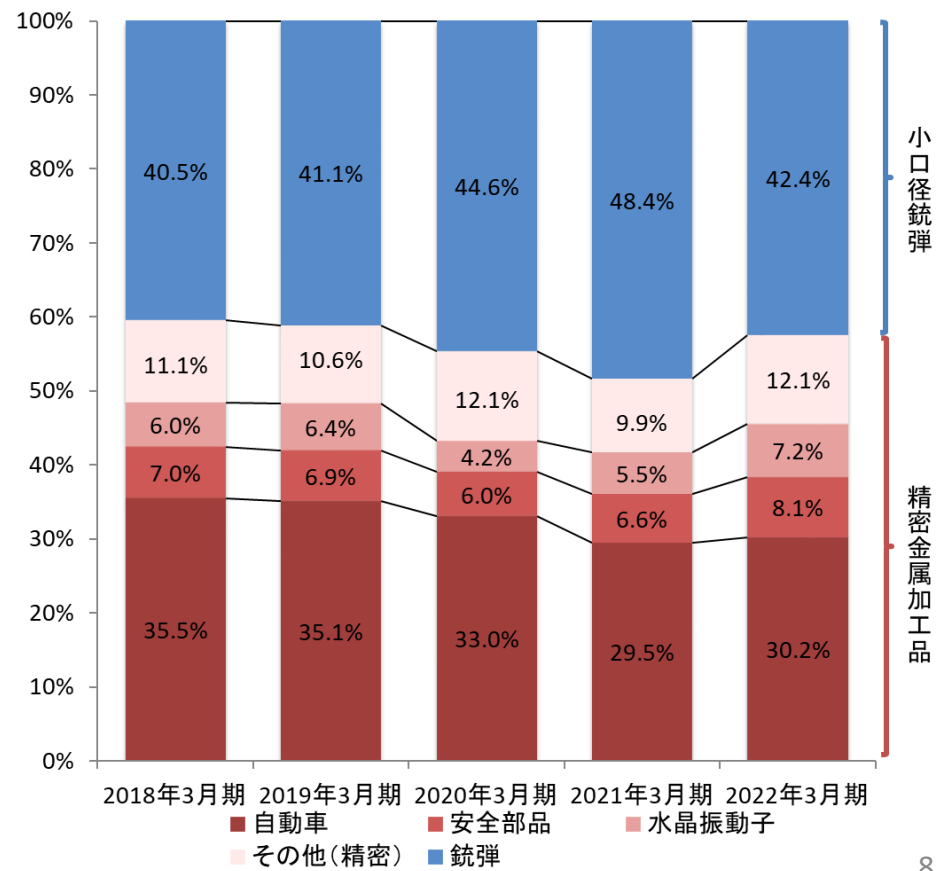
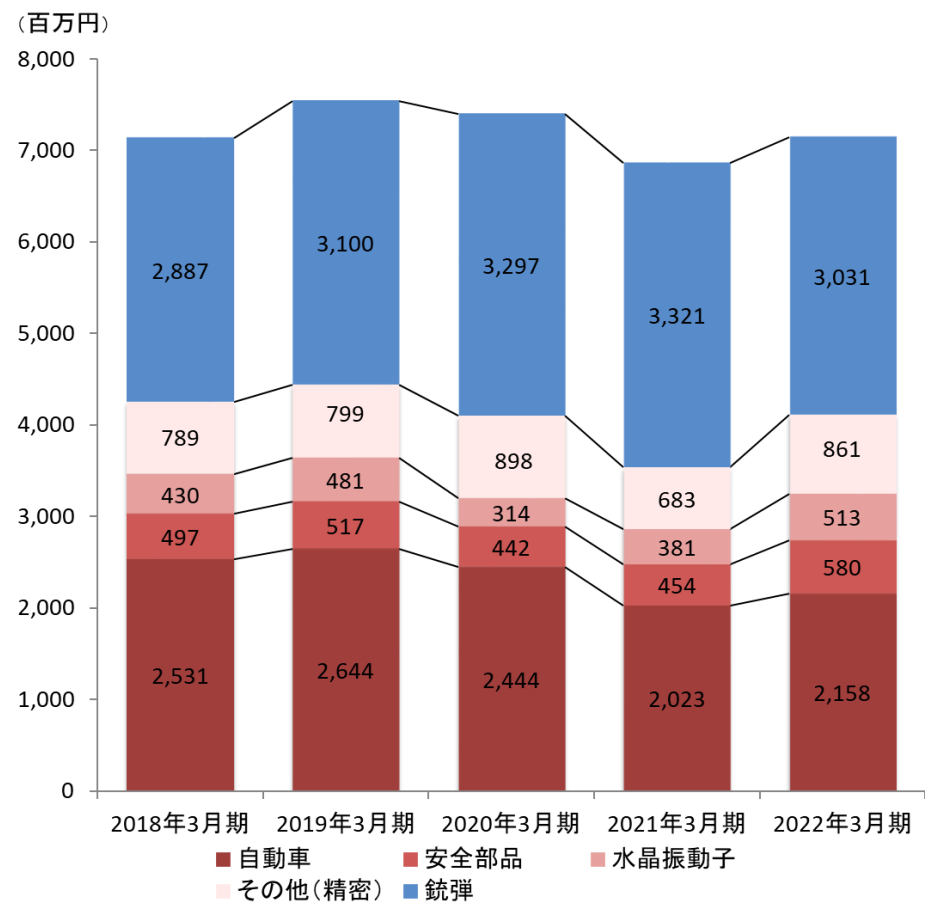


(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期
精密金属加工品	3,543	4,113
小口径銃弾	3,321	3,031
合計	6,865	7,145

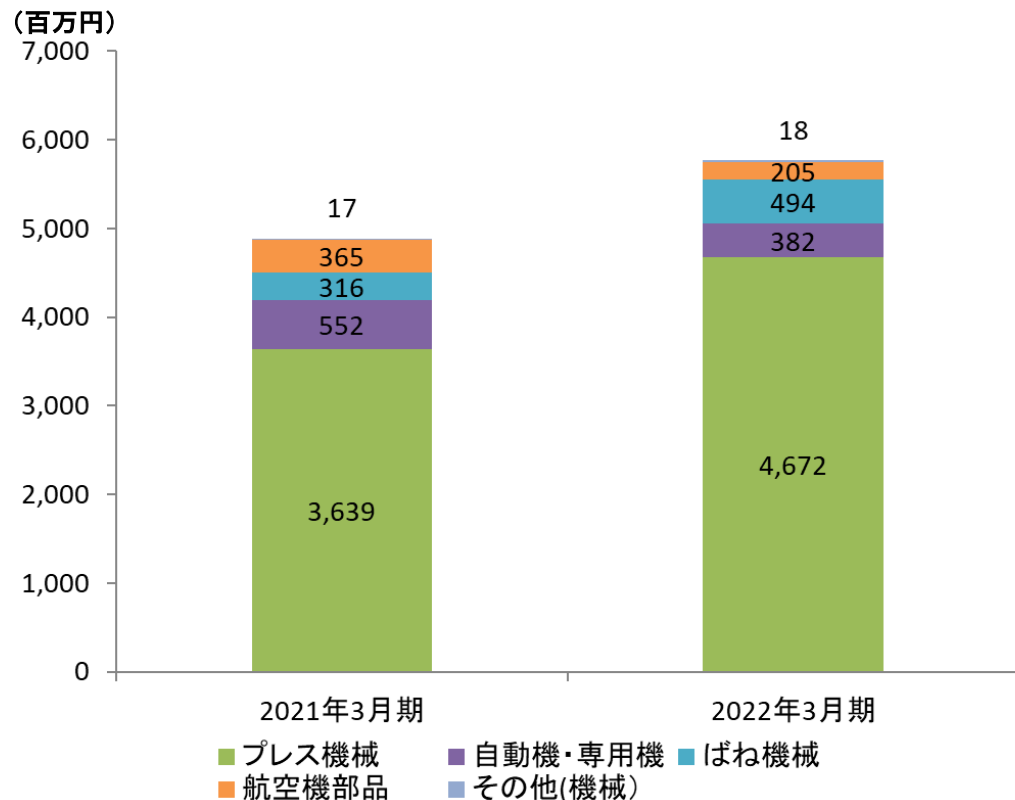
(百万円)



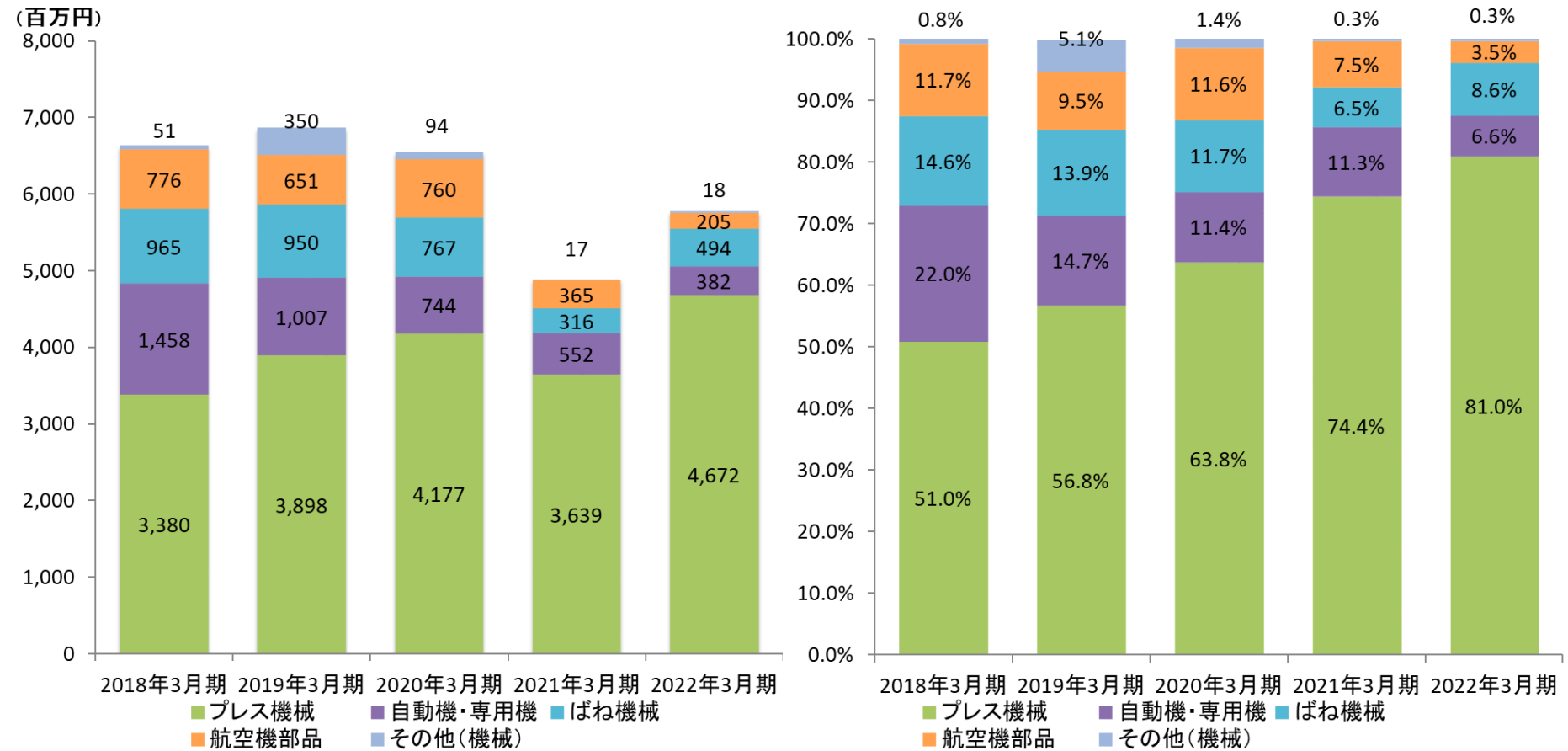


(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期
プレス機械	3,639	4,672
自動機・専用機	552	382
ばね機械	316	494
航空機部品	365	205
その他(機械)	17	18
合計	4,891	5,774



2022年3月期 機械事業部 売上推移及び構成比



(単位:百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (予想)	前年比
売上高	14,400	13,941	11,756	12,919	14,400	11.5%
営業利益	564	288	▲ 224	423	540	27.6
経常利益	618	359	▲ 130	474	600	26.3
当期純利益	764	404	408	504	400	▲ 20.6%
1株当たり当期純利益	308円38銭	167円73銭	169円71銭	207円64銭	160円70銭	-
1株当たり配当金	70円00銭	70円00銭	70円00銭	70円00銭	70円00銭	-
配当性向	22.7%	41.7%	41.2%	33.7%	43.6%	-

セグメント別売上高及び設備投資・減価償却費予想

セグメント別売上高推移及び予想

(単位:百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (予想)	前年比
精密加工事業部	7,542	7,397	6,865	7,145	7,400	3.6%
精密金属加工品	4,442	4,099	3,543	4,113	4,500	9.4%
小口径銃弾	3,100	3,297	3,321	3,031	2,900	▲ 4.3%
機械事業部	6,857	6,544	4,891	5,774	7,000	21.2%
プレス機械	3,898	4,177	3,639	4,672	5,850	25.2%
自動機・専用機	1,007	744	552	382	450	17.8%
ばね機械	950	767	316	494	650	31.6%
航空機部品*	651	760	365	205	-	-
その他(機械)**	350	94	17	18	50	▲ 77.7%
合計	14,400	13,941	11,756	12,919	14,400	11.5%

* 2023年3月期以降の航空機部品の売上金額につきましては、金額の重要性の観点からその他(機械)に組入れております。

** 前年比の数値につきましては、2022年3月期における航空機部品及びその他(機械)の合計金額と対比させた結果を記載しております。

設備投資(工事ベース)・減価償却費の推移及び予想

(単位:百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (予想)
設備投資	1,487	995	599	374	702
減価償却費	771	814	818	783	730

Topic 1. 岡谷鋼機株式会社との資本業務提携締結及び同社を処分先とする第三者割当による自己株式の処分

①資本業務提携の概要

岡谷鋼機株式会社(以下、「岡谷鋼機」と表記。)と当社は、精密金属加工品製造に係わる原材料調達や、当社機械の展示及び海外販売において緊密な関係を構築しております。
 本資本業務提携により、両社が保有する経営資源及び経営ノウハウを有効活用し、相互の協力により事業効率の向上等を図ることが、両社の企業価値向上に資するものと判断いたしました。
 業務提携内容: 岡谷鋼機の有する国内外ネットワークを活用した当社への顧客の紹介による新たな商流の開拓等

②自己株式の処分の概要

項目	内容
(1) 処分株式数	普通株式80,000 株
(2) 処分価額	1株につき1,972 円
(3) 処分価額の総額	157,760,000 円
(4) 処分方法	第三者割当による自己株式の処分
(5) 処分期日	2022 年1月12 日

Topic 2. 産学行政連携による共同研究結果を発表

(知の拠点あいち重点研究プロジェクトに参加)

(題目): 積層造形技術の高度化と先進デザインの融合による高機能部材の創製

(内容): 3Dプリンターを用いて内部にセンサーを設置できる超硬合金製の深絞りプレス成形金型を作製することに成功し、実証段階に入りました。またこの金型を実製造ラインに適用し、これまで極めて困難であった、インライン計測*を容易にする成果を確認いたしました。製品成形中に稼働状況の把握が可能となり、取得した情報を成形工程に反映することで製品精度の向上が期待できます。

*インライン計測: センサー等を生産ラインに組み込み、生産ラインを稼働させながらリアルタイムで温度や圧力などの計測を行う方法

本件は、2022年2月8日 愛知県庁において記者発表を行いました。

3Dプリンターによる超硬金型作製の流れ



超硬粉末の開発

例) 積層造形に適した粉末粒度分布

最適造形条件の検討

例) レーザー照射、熱処理方法

超硬合金製積層金型の作製

Possibility

Technology opening up new possibilities

旭精機工業株式会社

IRに関するお問い合わせ先
旭精機工業株式会社 経営企画・IR室
TEL:0561-52-5356

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその現実を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。